



令和七年^{きのとみ}乙巳を迎えて

戦後、GHQの占領政策で失われていった「古代から持っていた、日本人の心・精神」を思い出して頂くために、神社参拝の機運を高めようとして、各地域の精神的柱となっている「一の宮」の古社が手を携え、御神徳の発揚を目的として、平成三年四月に「全国一の宮会」が発足されました。

そして、一の宮を巡拝したいと願う、多くの人達との交流の場を提供し、巡拝の便宜を図る事を目的として、創作者・入江孝一郎先生により、「一の宮巡拝会」が創立されました。



平成十一年四月一日に創立された一の宮巡拝会も、令和七年四月を以って「二十六周年」を迎えます。

その理念を永遠に伝えて行き、誰もが「一の宮神社」を身近に感じて、全国の「一の宮」をお詣りして頂きたい。そして、「一の宮めぐり」が当たり前になって、人々の安寧の礎となる事を祈願しています。



日本人の「こころ・精神」は、縄文時代から続く「万物に神が宿る」という事から、「太陽信仰を中心として、自然に対する畏怖と感謝の念」と、祖先から子孫へと繋がる一つの命の伝承から「祖先神への感謝」と云われています。

江戸時代末期の国学者・本居宣長は、「対象となるものに、心を揺り動かすものがあり、それに、心を揺さぶられる事に気づく」、「しみじみとした、深い情感を知る」という事が日本人が持っている「もののあわれを知る」：日本人の美意識と説いています。神社を参拝し続ける事により、忘れ去っている神様への感受性が高まり、「神の道」を実践することにより、より好い人生が迎えられると信じています。



さて、初代 代表世話人 入江孝一郎先生、第二代・代表世話人 関口行弘氏、第三代・代表世話人 塩原輝昭氏へと継承されて参りましたが、今般、代表世話人の任務を諸事情により辞職される事となり、急遽、第四代・代表世話



茨城県 まつり山へ帰る…道路

人を 私儀 村上 彰 が拝命する事となりました。現在休止している、ホームページ内の『お知らせ欄 & ブログ欄』を活発化、発展させて、「一の宮巡拝会」の目的完遂を目指していく覚悟でございます。

より一層のご支援ご協力を賜りますよう 宜しくお願い申し上げます。

一の宮巡拝会代表世話人 村上 彰



鹿島神宮・正式参拝後記念写真

令和6年3月23日(土) 日帰りでしたが、参加者19名で一の宮巡拝会としては久しぶりに下総国・常陸国の計画が実施されました。麻賀多神社の到着に合わせて、あいにくの雨に遭いましたが… 正に浄めの雨だと誰かが言っていました。次に香取神宮へ赴き正式参拝後、奥宮の参拝を済ませて常陸国へ先ずは、「鹿島神宮摂社」跡宮へ行って物忌について知る事が出来ました。次の鹿島神宮本社では正式参拝終了後、「鹿島神宮摂社」の坂戸神社・沼尾神社 二古社を参拝して無事帰京しました。今回は文章ではなく、当日の感慨を思い起こして頂きたく写真の掲載と致しました。



鹿島神宮 本殿西側上部 豪華飾



鹿島神宮 正面鳥居



鹿島神宮 本・拝殿…正式参拝有

麻賀多神社



麻賀多神社入口



麻賀多神社 本殿



麻賀多神社 天然記念樹 パワスポ大杉

香取神宮



香取神宮 奥宮参道



香取神宮・奥宮



香取神宮 生憎の雨

鹿島神宮 跡宮



跡宮説明 由緒書



鹿島神宮・跡宮参道入口



鹿島神宮・跡宮社殿

坂戸神社



坂戸神社 入口



坂戸神社 幣殿・本殿



史跡説明書



説明書 4ヶ国語

沼尾神社



沼尾神社への参道



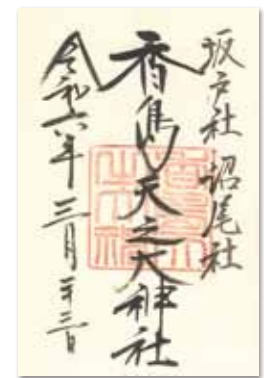
沼尾神社 入口



拝殿・後方に本殿



史跡説明書



香島天之大神社



特別御朱印案内



鹽竈神社 楼門



鹽竈神社 本殿

本年度の「全国一の宮 総会」は、志波彦神社・鹽竈神社にて8月22日に開催され当会からは塩原&村上二名が参加させて頂きました。12時集合から鹽竈神社本殿にて正式参拝後、記念写真撮影有り(上)。その後、私たちは神社境内を散策後会場へ戻り、講演会「多賀城跡」研修に参加拝聴した。懇親会はホテルメトロポリタンの最上階で開催され、宮司様方と交流を持つ事が出来て貴重な時を過ごせました。

翌日の23日は研修会で荒浜・東北震災跡地に残る震災遺構の小学校を見学後名取市へ移動～関上湊神社で正式参拝が有りました。その後昼食が有り解散となりましたが、塩原は今一度関上湊神社へ戻り、宮司様から震災後今日に至るまでの、ゆりあげ浜と五大明王を祀る風習の一部をお聞きして勉強となりました。その後、富主姫神社(富主弁財天・関上弁財天)を参拝し常磐道を経由して帰京しました。

一の宮巡拝会 関西ブロック活動報告

相談役 関口 行弘

関西ブロックでは、令和3年から年4回(春夏秋冬)近畿地方のパワーのあるお宮さん、66社を選んでお参りしてきました。この66社の選定に当たっては広島県尾道市在住の細谷美代子先生と私で相談して決めたものですが、毎回約8社をお参りしてきました。令和6年の6月によやく66社を完拝しました。そして9月29日～30日には私がオーナーを務める「丹波播磨路芸術の森」で反省会と今後の検討会を行い、令和7年1月21日～22日に大神神社で関西ブロックの初会合を開催することが決まりました。是非、会員また会員外の方々も参加して頂ければ幸いに存じます。



①自然の中でBBQを!

今回の参加者は10人でしたが、当日はお山でバーベキューをしたり、近くの薬師温泉「ぬくもりの郷」で温泉に浸かつ

たり、また兵庫県加西市の鷦野飛行場跡にある特攻隊の資料館や防空壕を見学したり、古墳や神社やお寺などの史跡を訪ねました。また、帰り道ではちょっと有名な北条鉄道小さな電車に乗ったり、ローカルな気分を満喫しました。



②兵庫県加西市鷦野町にある「鷦野飛行場資料館」にて。

関西ブロックの令和7年の初会合を奈良県桜井市の大神神社で開催致します。

日時は令和7年1月21日(火)～22日(水)で、21日は正式参拝の後に会議室にて交流会を、22日は奈良市内の古代史跡を巡る旅を予定していますのでご参加ください。詳細につきましては関口迄ご一報ください。

関口携帯電話 090-4907-9870
E=mail sekinomiya@s.zaq.jp

戸隠古道に現存する 六十六州一の宮の石祠



釈長明火定の塔を中心に三方に立ち並ぶ「諸国一の宮」の石祠

こよなく岩山を愛する登山者に人気の戸隠山はかつての時代、修験者の教導の山岳であったと伝えられている。今も人気に変わりがないが中復の神社巡りは一般のハイカーたちの人気スポットにもなっている。奥社・中社・宝光社三社を中心に戸隠古道には歴史の響りを深く残す社寺が数多残されている。(五社めぐり・六社めぐり等)

その一画に日本六十六州一の宮の石祠を拝する場所が中社～奥社に続く古道の傍らに「釈長明火定の地」と云う場所(公明院管理)があり、現在でも石祠が整然として並んでいる。

ある書物の中に書かれている事を簡略に抜粋して見ると文化7年(1810)、柵(しがらみ)の大昌寺九世住職で瑞応という人が、『一つには自分の師匠や両親の菩提を弔う為、二つには天下泰平・国家安穩の為、三つには一切衆生平等利益のため』に、法華經六十六部を書写し、これの一つ一つ小箱に収めて深く土中に埋めたと有ります。そしてその上に、当時の日本六十六国の一の宮の神を小さい石祠に祀り、二段の台石を据えて、釈長明火定の遺蹟の周囲に安置したと有ります。

この三つの念願は今に至るも実に燦然としたものである・・としています。その卓越した念願と事業の偉大さには唯、景敬し、感嘆せざるを得ないもので在ります。

そして昭和三年長野県の史跡保存の指定を受けたと有ります。瑞応の建立より歳月を閲する事茲に約214年(令和6年)にならんとしています。年々の風雨や風雪に耐えて、苔むしたまま歴然として石祠は火定の塔を中心に三方に立ち並んであったが昭和の初期、姫野公明師(戸隠最後の修験者)の先導により多数の有志者を募られ、現在にみられる様に、境内地が整美され又、六十六州一の宮も整然として整えられて来ましたが、この上ない事と存じます。

今一つ一つの石祠に静かに額づく時、先人の残したこの偉業と不断の努力とには更に頭の低くなるのを禁じ得ません。

筆者は素晴らしい聖地であると感じています。

塩原 記

■釈長明火定の地

平安時代、戸隠山の住像で法華經信者だった釈長明の「火定」の跡が公明院の一角にあります。長明は永保年間(1081～84)、25歳から無言のまま横にもならずに行を続け、最後は生きながらに身を焼き、兜率天に登る火定を行いました。

火定とは生きながらに身を焼き、弥勒菩薩が修行しているとされる兜率天へ登ることが、一般には生きながら死ぬことで即身仏となり衆生救済をします。他にも土定・水定もあります。

一の宮巡拝会 会員各位

令和七年度 年会費 納入のお願い

一の宮巡拝会の年度は、ご入会された日ではありません。毎年1月が更新月となっておりますが、過去4年間は会の行事もコロナ感染症の為、思う様に実施する事ができませんでした。令和6年度は、コロナ感染症も終息域5類に入ったので令和7年度から新年初参りのツアーをはじめ各種の行事を実施したいと考えております。今後も引き続き会からの企画を会員皆様へお知らせしてまいりたいと準備を致しております。

令和七年度 年会費納入を宜しくお願い申し上げます。

尚、七年度の会員証は下記の通り薄緑色のカードとなります。

〈会員証 見本〉



(81%縮小しています。また実際のカードの色とは若干異なります)

御協賛のお願い

年会費は会報発行のみではなく、会運営・事務・広告等の原費であります。4年間におよんだコロナ間は、何かと不行き届きをお掛け致してまいりましたが・・・どうぞご海容の程で容赦いただき、ご協力をお願いいたします。

巡拝会継続・発展のためご賛助寄付金のご奉賛と御援助を賜りますよう、宜しくお願い申し上げる次第でございます。



神社新報 令和6年1/1日号 広告掲載

全国一の宮神社所在地図 B3判横両面刷り (四ッ折B5サイズ仕上)



改訂版進捗中！
▲全国一の宮巡拝のすすめ B5判 20頁

「全国一の宮巡拝のすすめ」+「全国一の宮神社所在地図」をご希望の方は、送付先を明記の上、送料分(1セット) 500 円 必ず封書で本部事務局へお申し込み下さい。

ご購入希望者は本部事務局まで——ご注文の際は番号と品名を必ずご記入下さい。

墨書きに優れ、好評の和紙御朱印帳です。B5判(タテ257×ヨコ182mm)

※斐伊川和紙の表紙に関しては手漉きのため、予告なく色が変わる場合があります。

(↑予約品)



⑤ 斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)
(二十二社) 定価一万五千円

格式ある神社二十二社



④ 石州紙・白楮和紙
本文白紙版
定価九千円



③ 石州紙・白楮和紙
一の宮神社名・ご祭神名入り
定価一万円



② 斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)
本文白紙版(表紙色版)
定価一万七千円(↑予約品)

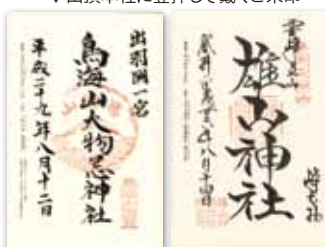


① 斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)
一の宮神社名・ご祭神名入り
定価二万円(↑予約品)

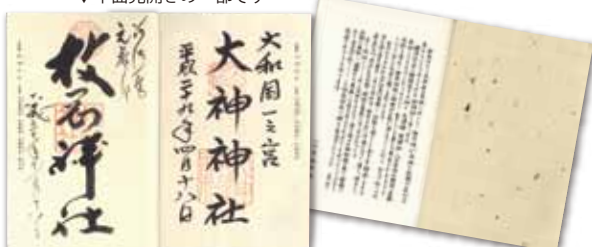


⑥ 石州紙・白楮和紙
(二十二社) 定価九千円

▼山頂本社に登拝して戴くご朱印



▼中面見開きの一部です



*軽量で携帯に便利!

*価格は全て税込です(送料別)

◆旅する一の宮《改訂版》
一の宮めぐりをもっと気軽に旅するガイドブックとして新たに平成二十四年五月一日に発刊されました。一の宮神社案内と合わせ、各神社周辺の観光スポットを紹介した多彩な情報が満載です。尚、各公式ガイドブックは一の宮神社と一の宮巡拝会本部事務局で頒布しており、一般の書店では購入することは出来ません。全国一の宮神社の社頭でお求めください。神社にない場合は、下記一の宮巡拝会本部事務局へお問合わせください。

頒布価格 各1,000円(送料別)



◆全国一の宮めぐり《改訂版》
一の宮神社の神職で構成されている『全国一の宮会事務局(大和国一の宮大神神社内)』で平成二十年十二月に発刊された公式ガイドブック「全国一の宮めぐり」は必携本となっております。巡拝会発行の「全国一の宮巡拝のすすめ」と合わせて活用して頂けたら幸いです。



「全国一の宮会」編 公式ガイドブック

⑦

特別限定小型版

斐伊川和紙
諸国一の宮御朱印帳

(奥出雲・手漉き)

一の宮神社名・ご祭神名入り

20冊限り



頒布終了

一の宮巡拝会 本部事務局

新住所 〒110-0005
東京都台東区上野3-4-8第2協同ビル(株)アドワーク2内
新電話番号 03-6284-3665
新FAX番号 03-6284-3669 (FAX専用)
http://ichinomiya-junpai.jp
E-mail: junpai@alpst-net.co.jp

※上記電話が繋がらない場合は ☎03-5823-3901 へお問い合わせください。

●入会金及び会費について
一般維持会員 年会費 3,000円
寄付金 お志し ※常時受け賜ります。(薄謝謹呈)